

祝 第100号/ ふじのくに静岡県

消防学校 ニュース



令和元年11月号

救助科(第33期)

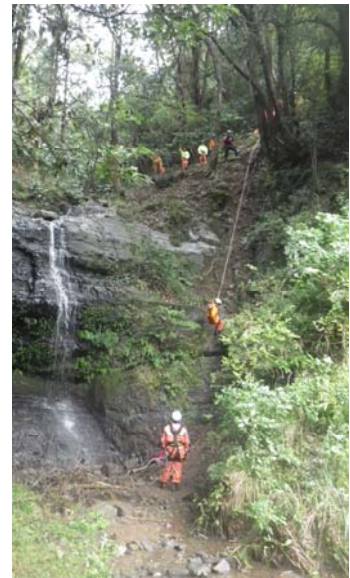
消防学校も、いよいよ後半へ

10月3日(木)～11月1日(金)の約1か月間、専科教育救助科を実施し、県内16消防本部から42人が参加しました。

救助業務従事者として専門知識と高度な技能・技術を備え、安全管理を図りつつ応用力を発揮できることを目標に、大規模災害対応能力の向上に主眼を置いた、厳しく、密度の濃い教育訓練を実施しました。県内の消防本部の救助隊員に訓練指導を当たっていただき、校外研修では建設現場や解体予定市営住宅さらには民間の施設なども訓練に使用させていただきました。御協力いただいた方々にはお世話になりました。心より御礼申し上げます。

(担当教官)救助技術の習得はもちろんのこと、救助隊員として、活力ある組織づくりの原動力となるため、リーダーとしての資質の向上、主体性を持って物事を考え幅広い視野で行動できる人材育成を目指しました。

関係各所の御支援のおかげで実践的な訓練が実施でき、総代、副総代を中心に全員が一丸となり目的を果たすことができた実りの多い1か月でした。救助科第36期42名の今後の活躍に期待しています。



山岳救助(静岡市消防局千代田消防署しずはた出張所)



震災時対応訓練(志太消防本部藤枝消防署)



都市型検索救助(浜松市消防局国際消防救助隊)



土砂災害対応救助(静岡市消防局清水消防署)



寒火災体験型訓練を終えて

中級幹部科(第33期)

10月23日(水)～11月1日(金)の8日間、幹部教育中級幹部科を開催し、県内14消防本部から消防司令補以上の19人が参加しました。

この教育は組織の中核を担う幹部としての責任、立場を理解するとともに組織管理、社会動向等について見識を深め、災害時等に的確な指揮及び対応ができる事を目的に行うもので、多岐にわたる集中的な教育訓練です。

(担当教官)座学・実科ともに真摯に受講され、講師に対して積極的に質疑をする姿が印象的でした。

今後、管理職となる当事者意識が高く、社会情勢の変化に伴う組織課題・危機管理について現状を分析し、解決策を考察されていると強く感じました。

中級幹部としての責任、立場を再認識するとともに、管理監督者となるための管理能力を習得されたと感じています。



中級幹部科(第33期)の皆さん

多数傷病者対応訓練(中級幹部科、救助科)

10月31日(木)中級幹部科と救助科が合同で訓練を開催しました。

この訓練は、多数傷病者発生時の指揮要領、部隊運用及び活動要領(トリアージ含む)を実施検証することで、災害発生時の対応能力の向上を図ることを目的に実施しました。

(担当教官)「消防学校だからこそできる訓練」を実施するべく企画しました。県内各所属より指揮隊、救助隊長、指導救命士を訓練アドバイザーとして招き、限られた資機材を工夫して実災害さながらの訓練を行うことができました。運営側として、課題や収穫も多く、今後も複数の教育課程で同様の合同訓練を継続企画し、県内での共通認識を図っていききたいと思います。



訓練全景(交通事故)



救助要領



指揮要領



トリアージ要領



爆発事故想定



救護所の様子

女性消防吏員講習（第2回）

県内各消防本部では計画的な女性消防吏員の採用をはじめ、女性消防吏員の研修機会の拡大、女性専用設備、施設の整備など様々な取組が進められています。

このような中、消防学校では昨年度、初めて女性消防職員を対象とした特別教育を実施しました。

今年度も引き続き、女性消防吏員としてのキャリア形成を考え、職域拡大等を目的とした女性消防吏員講習（第2回）を10月16日（水）～17日（木）の2日間開催し、10人の方が入校しました。

初日の講義では、元日本航空株式会社客室乗務員と現役すし職人として活躍する講師が女性活躍推進の大切さを説きました。

2人の講師を交えたワールド・カフェでは、テーマを『女性消防職員を増やすための手法』と題し、1テーブル4人でのグループミーティングを実施しました。

様々な意見が出る中で、「女性にとって施設は最も重要な要素の1つ。」「上司の意識改革、男性の意識改革が必要とともに、女性自身の意識改革も必要。」など率直な意見があり、これらを上手く現場にフィードバックしてもらえればと考えています。



元日本航空株式会社客室乗務員赤堀佐和子講師



現役江戸前寿司職人千葉由美講師



ワールドカフェの様子



実火災体験型訓練

県新規採用職員研修 危機管理講座

静岡県新規採用職員研修の「危機管理講座」が9月30日（月）～10月2日（水）の3日間、消防学校で開催され、241人が参加しました。

この「危機管理講座」では、毎日約80人の新規採用職員が、県民の生命・身体を守るための知識について、教官から「厳しく、優しく、親切に」指導を受けました。新規採用職員には慣れない訓練で戸惑いがあったと思いますが、今後の公務員人生において、貴重な経験になったと思います。

（訓練内容）

規律訓練
濃煙避難訓練
各種搬送法
屋内消火栓による放水
ホース搬送訓練
ロープ結索訓練
（ホース搬送訓練に参加できない者）



規律訓練



煙の特性を説明



濃煙避難訓練



各種搬送法



屋内消火栓の取扱い



屋内消火栓による放水



山へ向かって走る（ホース搬送訓練）

消大レポート（丸子教官）

消防大学校 救急科(第81期)

丸子教官（富士山南東消防本部から派遣）が9月17日(火)から10月18日(金)まで、消防大学校（東京都調布市）の「救急科」の教育訓練を受けてきました。

詳しくは下記のレポートをご覧ください。



研究部部長として課題研究発表の司会を務める



訓練後のフィードバックを実施



先頭で走る丸教官



救急科第81期全体写真（48人）

消大レポート

私は救急科 81 期の入校にあたり、全国から集まった救急のスペシャリストの学生達と交流を深めて意見交換や情報共有を行い、今後の消防人生に活かしたいという思いと、指導に対する技法や知識を高めることを目標にしました。そして、その目標は達成できたと感じています。

座学では、受ける側の視点ではなく、講師側の視点で講義を受ける様に心掛けました。教育は科学であり教育者は学習を支援することだと学びました。時間をかければかけるほど成果が上がるわけではなく、与えられた時間の中で、その人にあった効果的な教育をすることが大切です。教育技法やコミュニケーション技法等を学ぶことができ、学校教官、指導救命士として教育及び指導をしていく上で、とても役立つものとなりました。

技能管理では、到達目標に応じた適切な傷病を決め、プロトコールに対応する様態変化を考え医学的に検証するために、班で訓練想定と評価表を作成しました。それを実施隊に実施させ、運営管理を含め、評価班に評価を受けました。この訓練により、通常の想定訓練では得られなかった多角的な考えを学ぶことが出来ました。シナリオ作成からフィードバックまでのノウハウを今後の指導救命士としての活動に役立てていきます。さらに指導や教育の視点だけでなく、これからはどのように医療機関等と連携して行くのか、救急行政及び救急業務の課題や展望、訴訟問題など考えさせられる内容のものばかりで、この研修で得られたものは、とても大きなものでした。また、全国から集まった仲間達と約1ヶ月間学び、寮生活を共にして親睦を深めていく中で、地域による救急体制の違いや、多くの事例・症例、各地区MCの取り組み、活動時の対応等について、沢山のディスカッションができ、全ての時間が有意義なものとなりました。そして何より、同じ目的、目標を持つ仲間ができたことは自分自身の最大の財産となりました。

この研修で得たことを、県内の消防組織に還元するとともに今後の消防人生に活かしていきたいと思えます。

教務課 主査 丸子 修平(富士山南東消防本部から派遣)

消防団員警防科(第14期)

10月19日(土)～20日(日)の2日間、消防団員専科教育警防科を開催し、県内市町から団員経験が概ね3年以上の66人が入校しました。安全管理や防災に関する講義のほか、震災対応訓練、火災対応訓練の実技を行い、熱心に取り組んでいただきました。

緊張感のある実践的な震災想定訓練、ドールハウスを使用した火災性状の確認、B(建物)ーS(煙)A(空気の流れ)H(熱)F(炎)に基づいた屋外攻撃要領など、科学的・論理的な講義や訓練を実施し、普段の消防団で行われる訓練や活動では、得られない知識・技術を身につけることができましたと思います。



消防団員初級幹部科(第11期)

10月26日(土)～27日(日)の2日間、消防団員幹部教育初級幹部科を開催し、班長以上の階級にある48人が入校しました。初級幹部としての職責の自覚、消防団運営に必要な規律、安全管理などを主眼とした教育を実施し、真剣に取り組んでいただきました。

塩崎ぜっ校長

ワンチョット(チョイネタ)コーナー

今月のつぶやき



体操をする校長 無理は禁物！



祝第100号「消防学校ニュース」

我が消防学校では、毎月定期的に学校の訓練や出来事などを紹介する「消防学校ニュース」を作っている。作ったものは、各消防本部、消防団本部へメール送信、県の庁内LANの「全庁掲示板」に掲載し、静岡県消防学校HPにも掲載している。一部のコアな人は目を通してきていると思っていたが、消防関係者以外には、ほとんど知られていないと思っていた。

最近、友人や先輩から「消防学校ニュース読んでるぞ」と声を掛けてもらうことがあった。関係者以外にも読んでくださっている方がいると思うと、本当にありがたいし、うれしい。この紙面を通して、少しでも多くの人に消防学校の教育訓練や生活が伝わればと思う。これを励みに「絶好調」な紙面づくりにさらに精を出していきたい。

祝第100号
皆さんに感謝！
これからも頑張ります！



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎ 054-369-1190 FAX: 054-369-1197 E-mail: fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

